

## 〔5〕 なかよしタイムの実践

### (1) 設定の理由

遊びは、元来子どもたちにとって楽しいものであり、子どもたちの発達や成長に大切な役割を果たすものである。本校の子どもたちも、遊びは好きであると思われるが、遊びを楽しみきっている子はごく少数である。本学部の遊びの実態調査によれば、感覚遊びの段階の児童が4名、みたて・つもり遊びの段階の児童が5名、仲間遊びの段階まで至る児童が5名であるという結果が得られた。このような結果は、遊びの質的転換に至るには、発達が遅れているということも考えられるが、遊び方自体を知らないことから生じているとも考えられる。

そこで、本年度から毎週水曜日の2校時を「なかよしタイム」と名づけ、教師が積極的にいろいろな遊びを教えていく特設時間を設定することにした。ここで扱う遊びは、

- ① 子どもたちの生活や学習（生活単元学習、リズム・サーキット、合同体育、合同音楽）の中で取り扱われたもの。
- ② 教えたいと考えられる遊びを指導者が単発的に取り入れたもの。

によって成る。教科・領域で扱った遊びをさらに取り扱って、遊びを定着浸透させたり、またここで新しい遊びを教えて、教科・領域へ返すといういわば橋渡しの役割をこの「なかよしタイム」が果たせばと考えた。

### (2) 遊びの選定

遊びは、次のような事項を配慮して選定した。

- ・未経験だけど経験すれば楽しさがわかり、繰り返し経験させ定着させたいもの。
- ・子どもたちの生活の中に見られるもの。
- ・粗大運動を伴う遊びや製作的な遊び、ことば遊び等々幅広い間口で取り組めるもの。
- ・教師の少しの手助けで遊びの楽しさを味わわせられるもの。

今まで実践した遊びの実例と今後の予定

	1 学 期	2 学 期	3 学 期
生活の中から (トピック的な もの)	すもう		
	しっぽとり	バナナとり	カルタとり
	紙飛行機	竹とんぼ	
	ごっつあんジャンケン	やきいもグーチャーパー	
	かいかいかい		
文化的なもの (教師の意図す るもの)	きしゃあそび		
	なべなべそこぬけ		おちゃらか
	ひらいたひらいた	ロンドン橋	
	かごめかごめ	花いちもんめ	
		はじめの一步	



すもうを楽しむ子どもたち

### (3) 指導にあたって留意したこと

- ① 「なかよしタイム」の内容については、教科・領域との関連を図り、子どもたちが楽しめるよ

うになるまで繰り返していく。

② 活動に無理やり引き込むことを避け、子どもたちの主体的な活動もできるだけ認めていく。

#### (4) 実践例

##### 実践1 他教科・領域で見られた遊びをさらに発展させていった実践(すもう)

###### ① 設定の理由

K児は、入学以来すもうに興味・関心がとても強く、しこをふんだり、先生とすもうをすることを楽しんだりしていた。よくやっていたすもうは、相手を必然的に意識し、ルールを守ってするおもしろい遊びである。合同音楽でK児を意識して指遊びのすもうとジャンケンを一緒にした形の「ごっつあんジャンケン」をしたところ、子どもたちは、たいへんおもしろがり、すもうのやり方や楽しさを少し知ることができた。そこで、第1回の「なかよしタイム」に取り入れ実践することにした。

###### ② 授業の流れ——1学期の実践——

・4月24日—ごっつあんジャンケンをする。

(評価) 楽しんで遊んでいたか

S児—「すごい」「がんばるね」と言葉かけをしたら、歌を元気よく歌えたり、ごっつあんジャンケンもはり切ってやった。

Y児—声かけ笑顔等で楽しむ雰囲気をつくろうとした。内容はよく分かっていないようだが、雰囲気を十分楽しんでいた。

H児—無理につれこまず関心を持たせることに主眼をおいた。自分からは参加しなかったが、関心はもっていた。

・5月2日—小学部端午の節句のすもう大会

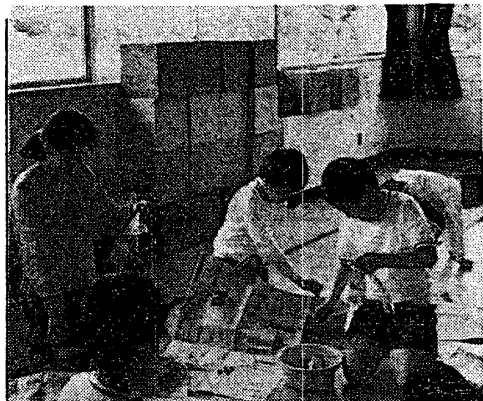
T児はこのすもう大会でチャンピオンになり、チャンピオン賞をもらい、目を輝かせていた。

・5月15日—すもうのビデオを見て気持ちを高め、作った塩を使ってすもうをする。

学 習 活 動	児 童 の 様 子
1. 横綱の取組のビデオを見る。 ・ビデオの近くに集まり、友だちといっしょに見る。	T児—真剣な顔をしながら楽しそうに見る。  M児—動作を真似て時々しこをふみながら見ている。  K児—テレビの近くに座って、じっと目をこらして見る。
2. 新聞紙で塩作りをする。 ・春の運動会の縦割りグループ(赤、黄、緑)に分かれて作る。	自分の入れ物に新聞紙を小さくちぎって入れる。  塩が入れ物にいっぱいになったら大きな袋に入れに行く。



すもうを観る子どもたち



集中して塩作りをしている緑組の子どもたち

3. すもうをとる。

能力的に同じ位の子ども同士で対戦したので、おもしろかった。  
 K児一塩をたくさんまいて楽しんだ。  
 S児一塩をちょっとしかまかず、相手に向かっていく元気が見られなかった。

赤組…集中して仕事ができしたが、途中からK児、H児は席を離れた。

黄組…手指の操作の未熟なY児は5分程集中して塩づくりをした。他の2人は張り切って競争しながらたくさん作った。

緑組…作業の速さに差があったが全員集中していた。T児は細かくちぎることを楽しんでた。

• 6月12日一本格的なすもうをする。

一人ひとりにおむれつ山、ぶっぶ山、山本山とその子に合ったしこながついていて子どもたちがやる気を出して対戦した。番付表を作る時、同じような能力の子と組ませることや女子は女子同士とする等の配慮をした。教師の行司で呼び出しの工夫が見られ、決まり手も子どもたちによくわかるように言ってやり、子どもたちの満足した様子が見られた。

教師の応援をまねて、子どもたちの中にも応援する子が見られるようになった。



楽しんですもうをしている

### ③ 実践を終えて

子どもたちが、すもうのやり方を覚え、楽しんですもうをすることができるようになってきつつある。すもうには自信をもって勝つことが多いK児や、横綱になりたいという気持ちで相手に向かっていけるようになったS児や、相手に積極的に向かっていき、勝ちたいという気持ちから技を工夫したM児や、あまり過激な相手からは逃げてしまうが、同程度の相手であれば相手を押すことができるようになったH児等変容が見られた。

仲間遊びの段階の子どもたちは、勝ちたいという気持ちが強く、相手を意識してすもうを楽しんでいる。自閉児にとっても何回も行って慣れてきておもしろさが少しわかりかけてきている。土俵のまわりで、友だちの応援をする子どもたちも見られるようになってきた。

今後は、もっと環境の工夫をし、教師の子どもたちへの援助を減らしていったら、教師も子どもた

ちと一緒に熱中して遊びたい。そのためにも繰り返しやって定着させていきたい。

## 実践2

### 遊びを教え、それを他の教科・領域へ発展させていった実践（なべなべそこぬけ）

#### ① 設定の理由

子どもたちは、伝承遊び「なべなべそこぬけ」の遊びを知っていなかった。そこで、歌に合わせて動作することや、仲間と遊ぶことの楽しさを経験させようと思って取り入れた。

#### ② 学習の流れ

5月22日、集合し「手をつなごう」の歌をうたいながら円になって座る。→指遊び（「汽車ポッポ」「かいかいかい」）をする。→わらべ歌（「ひらいたひらいた」「かごめかごめ」「なべなべそこぬけ」）で遊ぶ。→元気にハッをする。→集合しがんばったことを聞く。

#### ③ どのように発展させていったか。

子どもたちは、わらべ歌遊びの中でなべなべそこぬけが一番気に入った。最初やり方を説明して次に2人組でしたが、うまく遊べない子が多かった。歌が短く簡単で楽しんだ子ども数人いた。その後、合同音楽で何度もした。手を離さないことと入り口を指定していくうちにだんだんとうまくできるようになってきた。2人から3人、4人と仲間を広げていった。合同体育では、プール学習に取り入れた。始めは、手を離す子が多かったが、何度も練習し成功した。プール納めの日、お母さん方に見てもらってどの子の顔もうれしそうに輝いていた。



プールでしているなべなべそこぬけ

#### ④ 実践を終えて

2学期になって、ある朝、M子がH子と2人で楽しそうになべなべそこぬけをしていた。築山でも数人の友だちとしていた。この遊びが、生活の中でも見られだした。2学期のなかよしタイムで全員で1つの遊びの輪ができ、成果が見られはじめてきた。

#### (5) 考察及び今後の課題

この時間を設定したことにより、次のような成果が見られた。

- なかよしタイムで扱った遊びが、他の領域・教科で生きて、それらの授業を活性化させることができた。
- 遊びの種類が増え、自分から遊ぼうとする子どもたちの姿が見られるようになった。
- 仲間遊び段階の子どもが活性化し、それに影響されてみたと・つもり段階の子どもや感覚遊び段階の子どもたちへ波及していった、集団での遊びがダイナミックにできるようになってきつつある。

教科・領域で扱った遊びをなかよしタイムで定着させたり、なかよしタイムで教えた遊びが発展し教科・領域の授業をもっと活性化するようにしていき、楽しい雰囲気の中で力いっぱい遊ばせることが今後の課題である。